

令和6年度当初予算(第一次編成)賛成討論

公明党市会議員団 西山信昌(下京区)

公明党京都市会議員団は、令和6年度一般会計予算並びに市バス・地下鉄事業及び上下水道事業の公営企業会計予算に賛成の立場を表明しています。私は会派を代表し、賛成の理由を述べ討論いたします。

冒頭に、本年1月1日に発災しました能登半島地震におきまして、犠牲になられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。この間、救援活動、被災地支援などにご尽力くださいました全ての皆様に感謝し、私ども公明党も被災地の復興に全力を挙げることをお誓いします。

さて、このたびの令和6年度予算は、2月4日に市長選挙を終えられた松井市長が限られた日程の中で、京都市が抱える緊急課題を一日でも早く解決するための重要事業を盛り込んで第一次編成されました。第二次編成を見据え、的確な規模とバランスで編成された点が、私どもが本予算に賛成する第一の理由です。

特に、能登半島地震を受け、措置された防災・減災対策の強化については、本市においても、いつ起こるか分からない花折断層地震や南海トラフ地震などの不安がある中、建物の倒壊や火災の延焼といった被害の拡大を防ぐための耐震化や細街路対策、災害用備蓄物資の品目の拡大・充実など、市民の皆様のいのちとくらしを何としても守りぬくとの松井市長の強い決意の表れと評価しています。今後、地域の防災力を実質的に高める取り組みを含め、スピード感を持って全力で取り組んでいただきたいと思います。

また、コロナ禍が落ち着きをみせ、いわゆるオーバーツーリズムが大きな課題となる中、市民利用と観光利用の棲み分けに向けた「観光特急バス」の新設など、市長選挙で掲げられた公約実現に向けいち早く動き出されました。これらは、私ども公明党京都市会議員団が2月28日に行ったポストコロナ社会における観光戦略のあり方に関する提言とも思いを一にするものであり評価しています。

さらに、公明党京都市会議員団が求めてきた令和6年度予算要望の内容が大きく反映されています。子育て支援の充実、重層的支援体制の構築など誰一人取り残さない社会を実現するための施策、文化首都を支えるつよい経済の復活を目

指したスタートアップ支援の強化など、京都市の今と未来を見据え、的確な予算措置がなされたものと評価しています。

賛成する第二の理由は、令和5年度予算に続き収支均衡予算となった点です。これまで赤字補填のために公債償還基金から取り崩してきた「過去負債」の計画的な返済に向けて、10億円が計上され、令和2年度末に最大642億円あった過去負債は、460億円まで縮減するとされています。

行財政改革計画を策定した令和3年度からの集中改革期間の取り組みが全力で進められる中、歳入においては、市民・事業者の皆様のご努力や担税力強化の取組等により市税収入は、過去最高の3,178億円を見込むにいたりました。歳出においても、人件費の削減、行政経営の効率化、事業の見直しなどにより持続可能な行財政運営に向け財政状況が改善しており、大いに評価しております。この間の取り組みに敬意を表するとともに、ご理解いただいた市民の皆様に感謝申し上げます。

改善傾向にあるとはいえ、京都市の財政状況は、依然として油断できない状況であります。持続可能な行財政をなんとしても築くための新たな計画を策定するとともに、特に国や京都府に政策を説明し、納得してもらってしっかり予算を勝ち取っていただきたい。財政危機克服のために私どもも建設的な議論を重ねてまいりたいと思います。

次に、本予算における個別事業の評価と予算執行における課題と要望について申し上げます。

まず、各施策の推進にあたっては、京都のことを真剣に心配される有識者や文化人、様々なジャンルや規模の企業経営者や労働者、そして市民のために懸命に働く職員の生の声を、偏りなくオープンに求め、活発なコミュニケーションを通して課題解決へのヒントを共有すべきであると考えます。

「市民参加型」については、門川前市長時代からも「おむすびミーティング」や「ハートミーティング」など様々な実施されてきました。だからこそ、これまでにない新しい発想で「チャレンジ」することが大事であり、具体案として、オープンな場で、学生や子育て世代、若手職員など、多彩な世代の方との「タウンミーティング」を提案いたします。

保健福祉においては、公明党京都市会議員団が求めてきた重層的支援体制の構築、障がい者医療拡充、若年がん患者への新たな助成などが盛り込まれたことを評価します。重層的支援体制の構築については、支援の中で直面した課題の解決に向けて、既存制度の見直しや新たなサービスの創設につなげることなどを視野に全力で取り組んでいただきたいと思います。また、物価高騰が続く中、これまで同様市民の暮らしを守るための必要な支援を継続していただくよう要望いたします。

子育て支援・教育に関しては、一昨年の公明党の子育て応援トータルプランの発表から子どもまんなか社会の実現への大きな流れができ、昨年には、子ども未来戦略が発表され、次元の異なる子育て支援が進みつつあります。本予算でも、児童手当支給制度の拡充、公明党京都市会議員団が求めてきた産後ケア事業の拡充、医療的ケアが必要な児童生徒への支援強化、不登校児童生徒への支援強化なども盛り込まれました。

この大きな流れの中で、令和 6 年度、次期京都市はぐくみプランが策定されず。子育て教育環境日本一を次の次元に押し上げる、子どもの幸せを最優先する社会をめざしたプランとなるよう求めます。

次に、教員不足が喫緊の課題となる中、教員確保対策に全力で取り組んでいただいております。子どもの教育環境を確保するとともに、教員の働き方改革につながる取り組みをお願いします。また、全員制中学校給食の実施については、発表された「基本的な考え方」を踏まえ、早期実現に向けて全力で取り組んでいただきたい。

さらに、能登半島地震を受け、避難所ともなる学校体育館への空調設備の設置の必要性を痛感する中、新設についてのPFI可能性調査が盛り込まれています。学校体育館への空調設置については、当議員団が平成 31 年度予算編成に対する要望書から毎年要望したものであり、一歩前進したものと高く評価しています。今後ぜひ実施につながるよう要望いたします。

魅力あるまちづくりについては、市長は、本会議で「人口減少の少子高齢化社会において、京都の魅力をさらに高め、日本中・世界中の人々から“京都に住みたい、働きたい”と選ばれる街づくりを進める」と表明されました。今年度行われた都市計画の見直しは、それを前進させるものと期待しています。今後、見直しの効果を注視しながら、人口減少対策、また、市内中心部だけにとどまらない幅広い地

域の活性化を生み出す成長戦略につなげるため、不断の見直しに取り組まれるよう求めます。

文化政策の推進については、文化庁の京都への全面移転、京都市立芸術大学の移転など、大きく進む中、「突き抜ける文化首都京都」の実現に向け、斬新な発想で新しい京都の価値を生み出すための第二次編成をお願いします。

産業政策については、終わりのない物価高に対して、中小・小規模事業者や農林業、伝統産業等に対する継続的な経済好循環に資する支援とともに、若者・子育て世代が京都に定住できる企業誘致、スタートアップの強化を引き続きお願いいたします。

次に、市バス・地下鉄事業について申し述べます。市バス・地下鉄の利用はコロナ禍と比べ回復傾向にあるものの、令和6年度もコロナ禍前までのお客様数の回復を見込むことが難しい状況であり、担い手確保、経費の増嵩など、経営環境は極めて厳しい状況にあります。その中であっても断じて値上げはしないとの断固たる決意のもと、地下鉄5万人増客を達成した時以上の熱量を持って、“なりふり構わない経営改善の取組”による全庁を挙げて目標を明確にした増収・増客策に全力で取り組んでください。

その上で、公共交通のあり方については、市内中心部に重点が置かれており、周辺部への分散のあり方、市域全体の発展等に課題が残っています。ポストコロナ社会の新たな観光の形も視野に入れ、さらなる研究・取組をお願いいたします。

最後に、上下水道事業について申し述べます。厳しい経営環境が続く中であっても、今年度より始まった中期経営プラン後期プランの収支に関する目標が達成される見込みの予算となりました。引き続き経営改善に向けて更なる取組をお願いいたします。プランにおいても防災危機管理の取組が進められる中、このたびの能登半島地震においては、命を繋ぐ水の重要性が浮き彫りとなりました。

本予算において震災対策を前倒しで強化したことを大いに評価いたします。それに加えて市民への安全安心を届けるための戦略的広報や、上下水道局ならではの災害時に市民ができる対応等について工夫をこらした周知をお願いいたします。有収水量の増加が見込まれない中、水を取り巻く付加価値の高い事業も大切です。琵琶湖疏水船事業や脱炭素に向けた各種事業の更なる推進もお願いいたします。

以上、個別の事業について意見・要望を申し述べましたが、着実な事業推進と柔軟な対応を期待し、令和6年度予算について賛成いたします。今後、第二次編成においては、松井市長の強力なリーダーシップのもと、市長選挙で掲げられた公約の実現を大きく前進させるとともに、新しい公共の具体的な姿も示していただきたいと思っております。

松井市長は、予算議案説明で「次の世代に託す、種まきのような市政運営をしてまいりたい」と表明されました。私ども公明党京都市会議員団も、松井市長とともに、人口減少、観光と市民生活の調和、貧困、格差、孤独・孤立、地球温暖化といった様々な課題に向き合い、144万市民の幸福実現、そして、この魅力あふれる京都を次世代へ継承するための基礎を今この時に構築するため、全力で取り組むことをお誓いし賛成討論といたします。御清聴ありがとうございました。